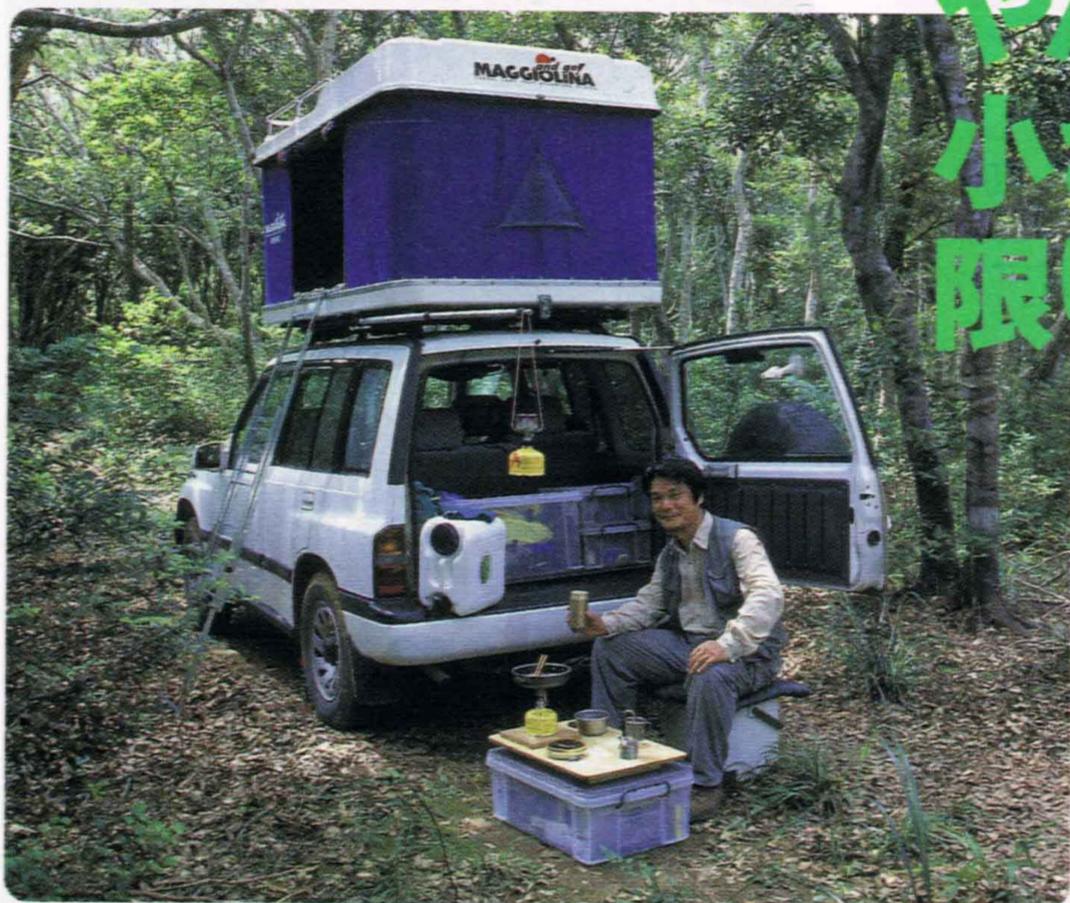


走るラボラトリーで
自然に分け入る



自然に深く入れれば入るほど遠隔地へ行けば行くほど、基地としてのクルマの重要度は高まる。趣味や仕事の道具をたっぷり積み込み、移動ラボ化したクルマを拝見!

やんばるは 小さな四駆に 限ります



湊 和雄さん

●写真家

スズキ/エスクードノマド

東京から沖縄に移り住み、沖縄の自然を撮り続ける。天然記念物「ヤンバルテナガコガネ」発見の立会人としても知られる。



↑信頼できるラダー・フレームと、離島に渡ることが多いため、フェリー料金の安い4mに満たない全長が、エスクードを選んだ理由。



↑現在使用中のエスクードは3代目。イタリア製の「マジョリーナ・アドベンチャー」という、2名用のルーフテントを搭載している。

湊さんの撮影場所は、ほとんどが山奥。小型4WDでしか行けない不整地を走り切った先で、長い時間を過ごす。だから愛車は、おのずと小型4WDになる。この走破性を犠牲にすることなく、快適な居住空間をプラスできるルーフテントが、湊さんの行動を激変させた。

「ホテルをとっても、ほとんど外にいたので無駄になってしまふ。最初は、テントを使ってみました。これも撤収や、ちょっとした移動に時間がかかるので不便。そこでみつけたのが、ルーフテントだったんです」

その他、積載している道具は、撮影機材と食事道具など最低限のもの。これを用途別に小型コンテナに分けて収納している。「遊びじゃないんで、ダッチオーブンは積んでませんよ」(笑)